

生徒主体の学びのデザイン 研究まとめ解説

「アクティブ・ラーニングを活用した指導と評価研究」より

2017年7月

ベネッセ教育総合研究所

目次

I .研究の概要-----	3
1 . 研究の目的-----	3
2 . 事例分析・研究の手順-----	4
3 . 分析研究対象事例-----	5
4 . このレポートの趣旨・目的-----	6
II .分析事例の概要-----	7
III .研究成果まとめ-----	9
IV .研究成果まとめ詳細解説-----	11
1 . A:目標→全体計画におけるポイント-----	11
2 . B:仕込み(事前準備)におけるポイント---	14
①学習環境-----	15
②教材(素材)③教材(問い・課題)-----	16
3 . C:授業におけるポイント-----	20
①授業設計(授業単位)-----	20
②指導-----	20
③成果/アウトプット-----	21
④振り返り-----	21
4 . D:評価におけるポイント-----	22
5 . まとめ-----	23

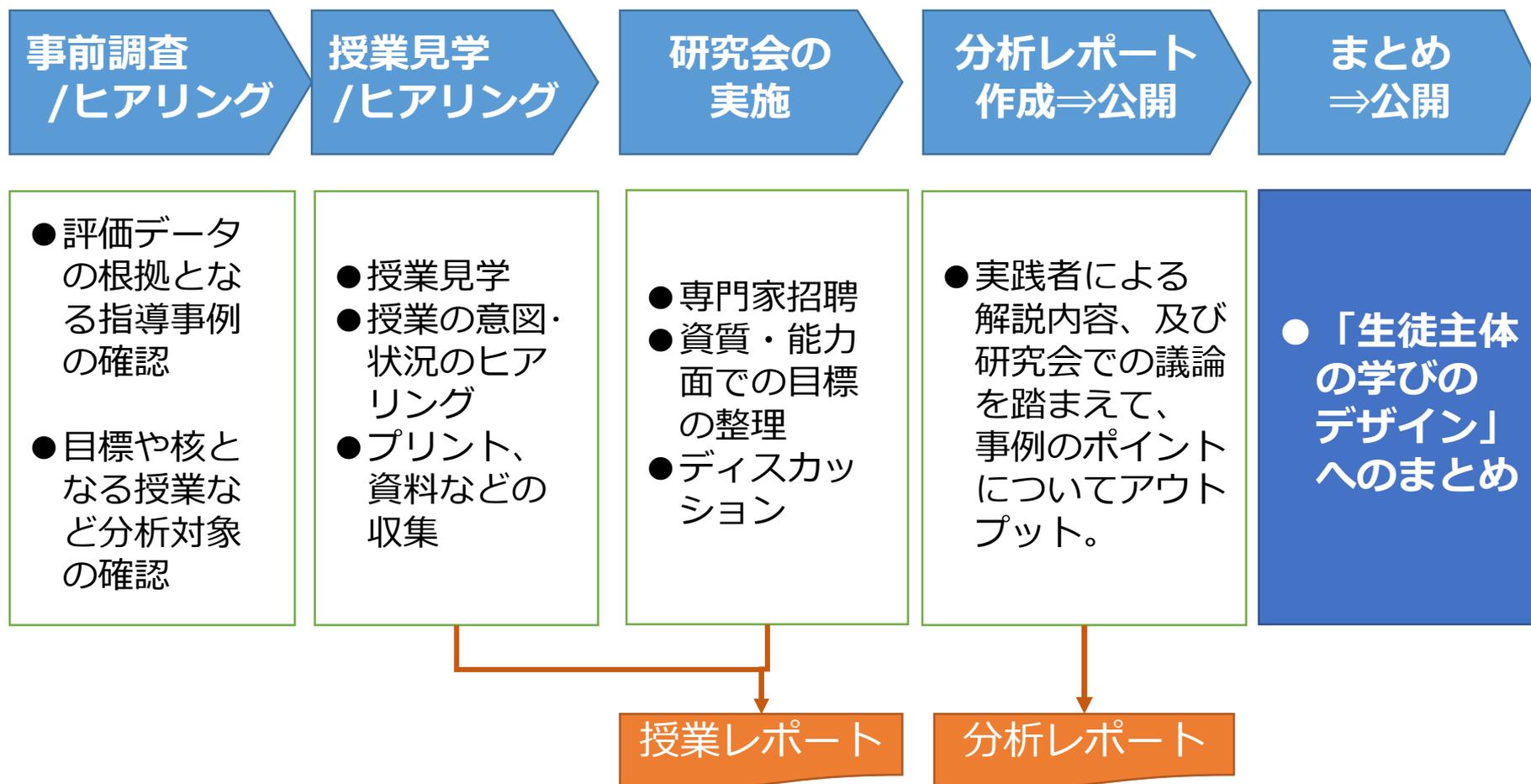
V:参考資料

#1: SS科学言語が設定するCT131項目	@安田学園	SS科学言語 I
#2: 考査振り返りシート	@国立高校	生物
#3: ルーブリック評価	@玉川学園	理系現代文
#4: 教師の振り返りツール 生徒アンケート	@国立高校	生物

■ コンピテンシー育成のための指導と評価 調査研究

これから必要とされる資質・能力（コンピテンシー）育成のための指導と評価について、アクティブ・ラーニングの視点を意識しつつ、事例研究・実践研究を通じた知見（ノウハウ）をまとめ、提供する

事例分析・研究の手順は以下の通り。各事例を分析し、見学した授業の様子を「授業レポート」に、取り組みの工夫・ポイントを「分析レポート」にまとめて、既にベネッセ教育総合研究所のWebサイトで公開している。そこで、各取り組みの工夫・ポイントについて、俯瞰的な視点で共通点・差異点を検討し、「生徒主体の学びのデザイン」にまとめた。



今回の研究で分析対象としたのは以下の4事例。客観的な評価に取り組む先進事例。

東京都立戸山高校(以下戸山高校)
課題研究・SS I (化学):田中先生
探究活動による研究者育成



東京都立国立高校(以下国立高校)
生物:大野先生
「対話を通じた学び」で生物への深い理解



東京都私立・玉川学園高等部(以下玉川学園)
理系現代文
読解・探究による批判的思考力育成



広島県私立・安田学園安田女子中学高等学校(以下安田学園)
SS科学言語 I
詳細な評価規準に基づく批判的思考力育成



■ 問題意識として

- ・ 資質・能力の育成につながる、指導や評価はどうすればよいのか？
- ・ 主体的・対話的で深い学びとアクティブ・ラーニングの視点とは？
- ・ 事例はいろいろと紹介されているが、
「うちでは使えない」「応用できない」との声をよく聞く

そこで

事例分析で終わらず、それらの事例を俯瞰して

- ・ 共通点・差異点はどこか、
- ・ 違いをどう認識すればよいか
を分析・整理

このレポートでは、

主体的・対話的で深い学びにつながる、
「生徒主体の学びのデザイン」として、
プロセスとそのポイントについてのまとめを作成

■ 事例 1 : 探究活動による研究者育成

戸山高校 課題研究・SSI (化学):田中先生



- 世界に通用する科学者の育成を目指す
- ロールモデル（本物の姿）の提示
校外での学びの機会を多く紹介
- 大会での発表等をゴールに、
逆算スケジュールで探究活動を行う

○授業レポート http://berd.benesse.jp/feature/focus/15-al_report/activity2/
○分析レポート: <http://berd.benesse.jp/ict/research/detail1.php?id=5023>

■ 事例 2 : 「対話を通した学び」で生物への深い理解

国立高校 生物:大野先生



- 生物への深い理解と、自身で問いを立て、
解決できる人間的な成長を目指す
- 教師が解説・講義する形ではなく、
生徒による「対話を通した学び」を実践

○授業レポート: http://berd.benesse.jp/feature/focus/15-al_report/activity3/
○分析レポート: <http://berd.benesse.jp/ict/research/detail1.php?id=5044>

■ 事例3：読解・探究による批判的思考力育成

玉川学園 理系現代文



- 批判的思考力の育成を目指す
- 前期は科学系テーマの読解活動
- 後期は、小論文・探究活動で育成を目指す

○授業レポート：http://berd.benesse.jp/feature/focus/15-al_report/activity1/

○分析レポート：<http://berd.benesse.jp/ict/research/detail1.php?id=4987>

■ 事例4：詳細な評価規準に基づく批判的思考力育成

安田学園 SS科学言語I



- 科学に適切に向き合う態度と知性、他者に適切に応答する能力と批判的思考力（CT）の育成を目指す
- 批判的思考力を育むためにCT評価規準にひもづく131項目の学習活動に細分化して取り組む
- 「問い」が、具体的にどのような思考力なのかを明記して取り組む

○授業レポート：http://berd.benesse.jp/feature/focus/15-al_report/activity4/

○分析レポート：<http://berd.benesse.jp/ict/research/detail1.php?id=5065>

Ⅲ.研究成果まとめ

主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、これから必要となる資質・能力を育成するには、「授業」の場だけではなく、育成を目指したい生徒像や目標を起点として、それを実現するための学習環境も含めた全体のトータル設計が重要である。

実現したい学びの姿



生徒たちが仲間と一緒に学び深めている姿

私は授業中、説明はほとんどしません。教師の説明を聞いているだけでは、生徒は思考しません。自分たちで課題に取り組み、考えて、仲間とともに、学び取ってほしいのです。

国立高校 大野先生

目指す学びの姿を実現させるために、必要なもの

育てたい生徒像/身につけたい力 / 教師の願い・思い・意思
生徒と共有すること

そのための学習環境

●事前準備
教材（素材）
教材（課題・問い）

思考するための教材

●生徒たちの
学びの意識変革

教えてもらう⇒学び取る

●対話で深まる
学習環境

話すと分かる/深まる/
話し合う意味がある

●アウトプットと
振り返り

学びを深めるために

Ⅲ.研究成果まとめ

これからの社会を生きるために資質・能力の育成や、次期新学習指導要領の目指す「主体的・対話的で深い学び」を実現するための指導と評価を考えるにあたっては、「授業」の側面だけでなく、授業を核とした学びのトータル設計が必要で、そのプロセスとポイントを「生徒主体の学びのデザイン」としてまとめた。

生徒主体の学びのデザイン		ステップ	ポイント		
実施ステップ	まとめ				
目標 ↓ 全体計画	目標設定 (資質能力ベースに)	A: 目標 ↓ 全体計画	①目標設定	●育てたい生徒像・能力育成の目標を描く	
	授業設計 (年間)			●生徒に目標を具体的にイメージさせる	
仕込み (事前準備)	学習環境	B:仕込み (事前準備)	②全体計画	●目的に応じた全体設計	
	教材 (素材)			●学びのマインドセット	
	教材 (課題・問い)			●学び方を学ぶ	
授業	授業設計 (授業単位)	C:授業	③教材 (課題・問い)	●社会につながる学習の場の活用	
				①学習環境	●対話で深まる学習環境
				②教材 (素材)	●思考を促す教材
	指導	③教材 (課題・問い)	●思考を促す課題・問い		
成果/アウト プット	振り返り	D:評価	①授業設計(授業単位)	●個⇒グループ⇒個	
				②指導	●対話を通じた学習
				③成果/ アウトプット	●生徒の思考を促す
				④振り返り	●多様な思考を認めるよう促す
評価 (多面的評価)	評価	D:評価	②指導	●状況に応じた支援・指導を加える	
				③成果/ アウトプット	●思考・成果をアウトプット
評価 (多面的評価)	評価	D:評価	④振り返り	●結果・プロセスの振り返り	
				①授業設計(授業単位)	●多様な生徒の評価 / ●教師自身の振り返り

※なお「生徒主体の学びのデザイン」については、「チェック観点」として活用いただけるように、別資料としてアップしてありますので、ダウンロードしてご活用ください。

ステップ		ポイント
A: 目標 ↓ 全体計画	①目標設定	<ul style="list-style-type: none"> ● 育成したい生徒の姿を具体的に描く ● 育みたい能力を明確にする ● 目標を具体的に、生徒がイメージできるようにする <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒がなりたい姿のイメージを持てるようにする ・ 評価の観点（成果のイメージ）を生徒と共有する

事例	育てたい生徒像・能力育成の目標を描く	
戸山高校 課題探究・SSI(化学)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界に通用する科学者の育成 ・ 課題発見能力・課題探究能力・成果発表能力(日・英)の育成 ・ 自ら考えて行動し、研究活動を進める力 	<ul style="list-style-type: none"> 育てたい生徒像 創造的・批判的思考力 自律的活動力
国立高校 生物	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生物を愛する人、自身で問いを立てて解決できる人の育成 ・ 対話を通して学ぶという学習観と関係形成力 ・ 批判的思考を働かせながら本質的な問いを持てる力 ・ 生物への深い理解 	<ul style="list-style-type: none"> 育てたい生徒像 学習観 コラボレーション力 創造的・批判的思考力 知識
玉川学園 理系現代文	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自律的に課題探究に取り組む姿勢 ・ 自分の意見を持ちつつ、批判的思考をする力 ・ 研究活動を支えるために必要な言語の習得 	<ul style="list-style-type: none"> 学習観 コラボレーション力 創造的・批判的思考力 知識
安田学園 SS科学言語 I	<ul style="list-style-type: none"> ・ 読解力、表現力につながる批判的思考力 ・ 科学に適切に向き合う態度、他者に適切に応答する力 	<ul style="list-style-type: none"> 創造的・批判的思考力 社会倫理 コミュニケーション方略

ステップ		ポイント
A: 目標 ↓ 全体計画	②全体計画	<ul style="list-style-type: none"> ● 目的に応じた全体設計 ● 学びのマインドセット <ul style="list-style-type: none"> ・受け身から学びの主体へ変革 ● 学び方を学ぶ <ul style="list-style-type: none"> ・学習／探究の進め方 ● 社会につながる学習の場の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・外部リソースの取り入れ

事例	年間の全体計画
戸山高校 課題探究・ SSI(化学)	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生は、夏休みまでは基礎知識・スキルの習得 ・夏以降、個別の探究活動の実施 ・研究発表大会など校外の場を紹介。エントリーを促し入賞を狙う ・「発表」時期を目標にスケジュールを逆算し活動を計画化
国立高校 生物	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初期(~5月頃) に対話が成立するための学びの場づくりを行い「人と話すことで学びになるという」マインドセットを醸成する ・6月以降は対話を通じた学びの実践。実践を通じて学び方を学ぶ
玉川学園 理系現代文	<ul style="list-style-type: none"> ・年度の前半は、読解を中心とした活動 ・年度の後半は、自らテーマを決めた探究活動
安田学園 SS科学言語 I	<ul style="list-style-type: none"> ・CT評価基準を基にした131項目のCT学習活動リスト作成。年間の扱い方を計画 ・CT指導項目を記録し、過多を確認・調整

【具体事例】 目的に応じた年間設計/外部リソースの取り入れ @戸山高校（課題研究・SSI(化学)）

戸山高校での年間活動計画は以下の通り。社会につながる学習の場を活用し、育成したい能力目標に合わせて設計されている。

4月

研究に向けた基礎習得

8月

個人研究（探究活動）

3月

ねらいと授業

課題発見能力

・最先端の化学技術に触れる

授業

- 先輩の課題発見事例の紹介
- ノーベル賞受賞者の講演会
- 博物館実習
- 東京大学生産技術研究所訪問など

課題探究能力

・化学の先取り学習
 ・英語で内容を理解し、質疑応答
 ・実験技術の向上、分析化学の手法を学ぶ
 ・高度な器具を用いた実験分析法を習得

授業

- 化学ガイダンス
- 英語で質疑応答体験
- コンサルタント講座
- 早稲田大学体験実習 など

成果発表能力

・分かりやすく説明する手法を習得
 ・写真や図表の貼り付け、グラフの作成法を習得

授業

- ポスター資料作成
- ワークショップでの演示体験など

他者の研究に触れ自己の研究に生かす

・研究職への理解を深める
 ・女性研究者や女子大生と接して、将来をイメージする

授業

- 理化学研究所訪問
- 生物工学会フォーラム
- SSH理系女子発表会など

・個人研究を深める
 ・論文作成

授業

- 個人研究・論文作成・ポスター製作

・本格的な発表を体験し、場数を踏むことで成長する
 ・専門家から助言を得る

授業

- 戸山祭での発表
- 研究成果発表会
- 都SSH指定校合同発表会
- 化学クラブ発表会 など

○:学校内での授業、●:学校外での授業

ステップ		ポイント	
B: 仕込み (事前準備)	① 学習環境	●対話によって学習が深められる学習環境を用意する	
	②教材 (素材)	●思考を促す素材を用意する	<素材の例> ●オリジナル素材の場合 ・多面的な視点が持てる素材 ・自分の日常と結びつく素材 ●教科書の場合 ・既存の教科書を分析し、どの能力が育成できるのかを明確にして使用する ・情報を批判的に捉える対象としても、教科書を利用する ●入試問題の場合 ・入試問題を分析し、能力の育成や深い理解が促されるかを明確にして、活用する ●論文などの場合 ・探究活動のために、学術論文なども含めた必要な情報を生徒自身が集め、活用することを支援する
	③教材 (課題・問い)	●思考を促す課題・問いを設定する	<問いの例> ●理解を深める問い 「～について論ぜよ」など、理解をしていないとすぐに答えにたどり着かない、いくつかの視点が含まれる問い ●思考するための問い ・「○と△はどのような点で似ているか」「△と□を比較してどちらを選ぶか論ぜよ」など ●複数の情報を分析して多面的に考える課題や問い ●オープンエンドで多面的に考え、自分の考えを深められる問い ※上記の観点を取り入れて、ワークシートの形式などで教材化する ●探究テーマの自己設定の支援 ・興味・関心が持てるもの ・社会に役立つと考えられるもの

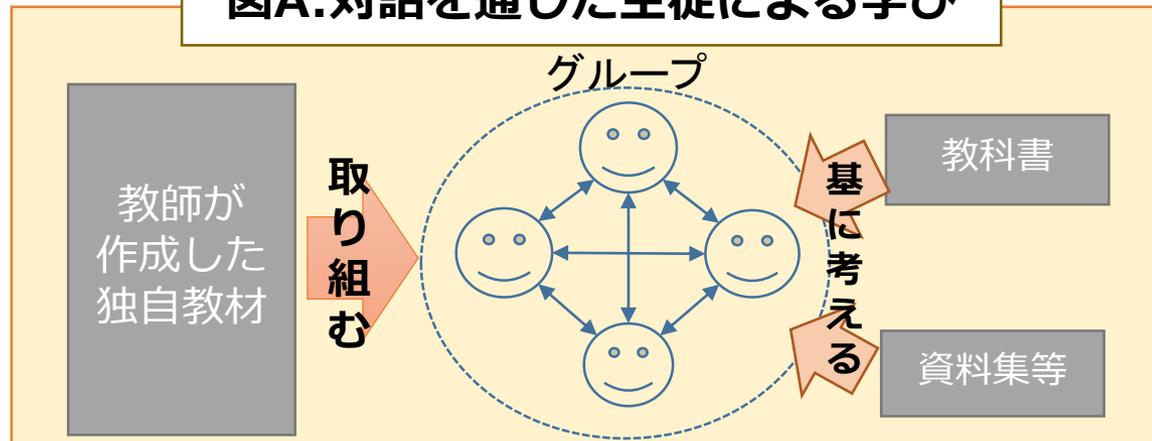
【具体事例】①学習環境：対話で深まる学習環境

@国立高校(生物)

東京都立国立高校の生物担当の大野先生は、教師による講義が中心ではなく、図Aにある「対話を通した生徒による学び」を実践している。

教師作成の「独自教材」に生徒たちがグループで対話をしながら取り組むことで、自ら学び取る力や創造的・批判的思考力の育成・向上と生物への深い理解を図る。

図A:対話を通した生徒による学び

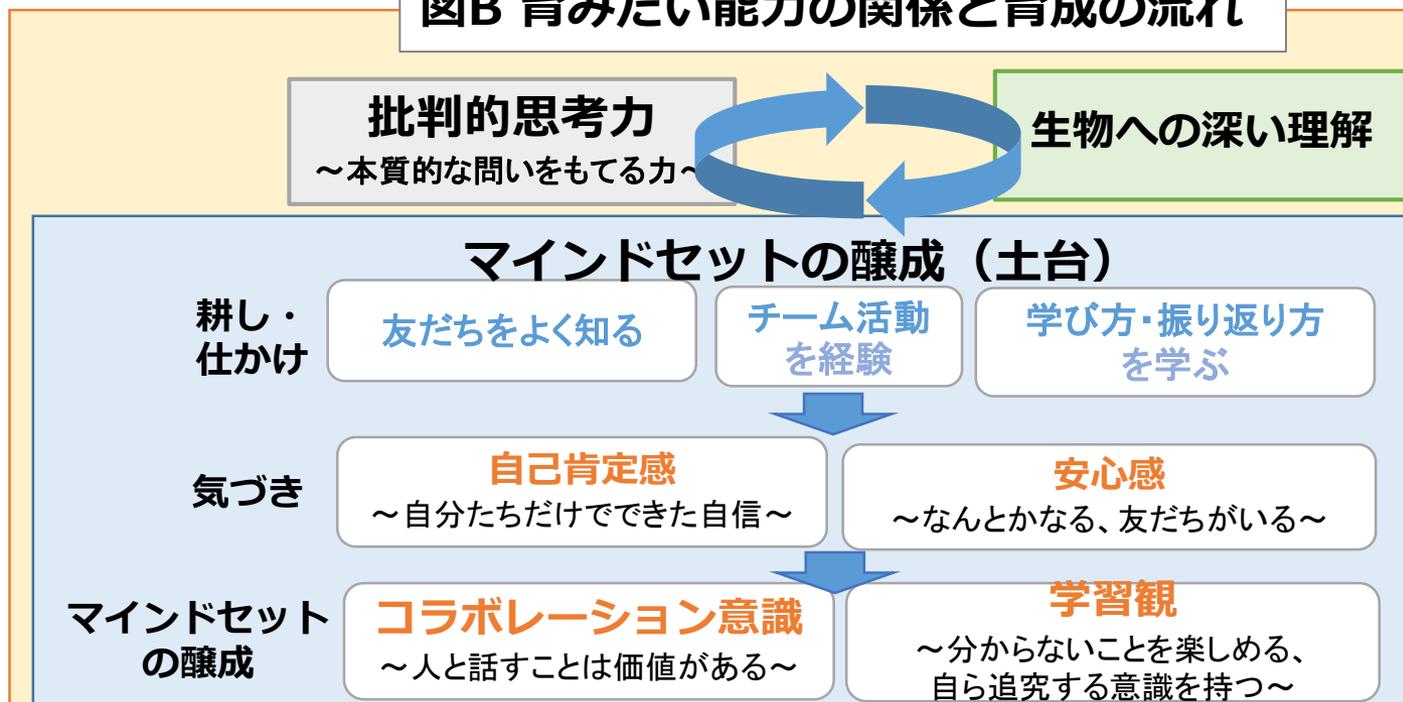


その学びを実現するために、図Bにあるように、年度当初にチーム活動を経験することで、友だちをよく知り、安心して話せる人間関係を築いている。

さらに自ら追究することの楽しさや、対話を通じて、学び取ることに価値があるというマインドセットの醸成を基盤としている。

※これは、A-②全体計画の「学びのマインドセット」の説明でもある

図B 育みたい能力の関係と育成の流れ



【具体事例】②教材(素材)③教材(問い/課題) @国立高校(生物)

大野先生の独自教材は、「課題プリント」と「課題の手引き」からなる。

「課題プリント」は、教科書ベースの知識で本質に迫れるような問題で、思考が深まる問題・課題作りを行う。課題には、分かった気になってしまいがちな点や思考してほしいポイントに、入試につながりそうなキーワードを入れて出題。立ち止まって考えることで理解が深まるものになるように工夫している。

さらに、学びを広げ・深め、創造力の育成や学びの継続性を意識した発展課題も出題。

「課題の手引き」は、教科書も参考資料として併せて読みながら、生徒の理解促進につながるヒントを示し、生徒が自ら学びを深められるようにしている。

課題プリント

●基本課題

理解する
ための問い

●発展課題

さらに
深める問い



課題の手引き

解決の
ヒントと
なる
考え方

生物の体内環境プリント No.1

体内環境と体外環境～からだの「内」と「外」、**「内」**は液体でヒタヒタ

目的

- 体内環境とは体液のことであり、その状態がほぼ一定に保たれ、全身の細胞の生命活動が支えられていることがわかる
- 血しょう、組織液、リンパ液がどこに存在し、どのような関係にあるか、どう循環、移動しているかが説明できる。
- 体内の血液循環の流れと、それを実現するしくみを説明することができる。
- 循環系での酸素運搬のしくみや、血液凝固のしくみを説明することができる。

課題1 体内環境に関して、以下の内容を確認せよ。

- ① 体内環境とは、細胞を浸している体液のことである。個々の細胞にとっては、自分の周りに存在する液体成分がさらされている「環境」だからである。
- ② 体外環境は温度などの変化が大きいのに対して、体内環境は変化が比較的小さい。これは、体内環境を一定に保とうとするしくみがあるからである。

課題2 教科書P94図1を見て、多細胞生物の一つ一つの細胞に「快適な環境」が提供されるために、循環系、呼吸系、消化系、排出系がどのような役割を果たしているか説明せよ。

課題3 血しょうに含まれる以下の成分をほぼ一定に保つことは、細胞の活動にとってどのような意味を持つか説明せよ。
①グルコース ②酸素の量

課題4 血しょうの温度やpHをほぼ一定に保つことは、細胞の活動にとってどのような意味を持つか、説明せよ。

課題5 教科書P95図2を見て、体液の存在する場所と移動の様子を説明せよ。

課題6 教科書P96図3を見て、以下がどこにあるか確認し、動脈血や静脈血がどこをどの方向に流れているか確認せよ。
左心房 左心室 右心房 右心室 大動脈 大静脈 肺動脈 肺静脈 肝門脈
リンパ管と血管の合流部分

課題7 教科書P97図4を見て、動脈、静脈、毛細血管の構造が、果たすべき機能とどのように関連しているか、違いがわかるように説明せよ。

課題8 教科書P97参考を読み、以下の間に答えよ。
①閉鎖血管系に比べて開放血管系ではなぜ「からだが大形化してもすみずみまで血液を循環させることができる」のか説明せよ。
②2心房2心室の心臓が、1心房1心室や2心房1心室の心臓よりも機能的だと思われる点を説明せよ。

課題9 教科書P98参考を読み、組織へ効率的に酸素を運搬できるしくみを説明せよ。

【具体事例】 ②教材(素材) ③教材(問い/課題) @玉川学園(理系現代文)

玉川学園の理系現代文では、理系を目指す生徒たちの国語への苦手意識の払しょくと、批判的思考力の育成を目指し、科学的なテーマを中心とした、「多面的な視点が持てる素材」「自分の日常と結びつく素材」などを選び、「基本構成を3段階とした問い」での読解活動を行っている。

【素材テーマ】

A 4見開き程度の文章量で、多面的な視点や様々な意見が持てるような教材、素材を選定。読むことで批判的思考の観点を理解できる文章を含める。

- ・「機械に『心』は宿るか」
- ・「鶴亀算と連立方程式」

【問いの基本構成とその例】

①文章理解を確認する問い

問1. 次のタイプの問題を、方程式や未知数
□○○△x yを使わずに、和算の例のように解くために、必要な本質的なアイデアを発見せよ。

②文章内容の整理・分析・解釈をする問い

問2. 筆者は、和算と洋算を対比させることでそれぞれのよいところ、よくないところをどう述べているか。

③自分の意見・主張を作る問い

日常と結びつけて考えられるよう工夫された問いやオープンエンドの問い

問3. この例の鶴亀算と連立方程式への筆者の最後の言葉について、根拠を挙げて自分の意見を述べよ。

【具体事例】②教材(素材) ③教材(問い・課題)

@安田学園(SS科学言語 I)

右の表は、安田学園で作成されている批判的思考力（CT）評価規準である。

SS科学言語 I では、これをさらに131項目の学習項目に細分化している。
（※参考資料# 1）

細分化することで、教材内容にかかわらず、CTを育む学習活動が、バランス、よく行えているかをチェックし、CTを強化することを可能にしている。

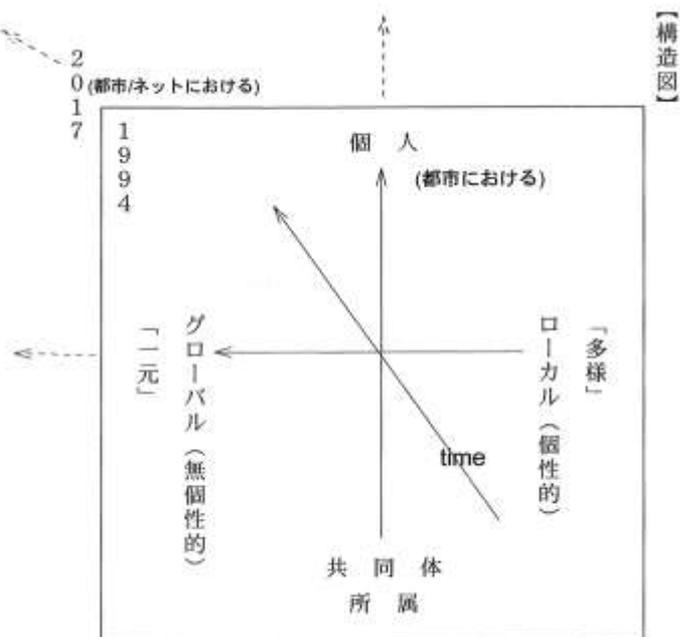
A 態度	1	好奇心を持って積極的に活動し、考え、更に調べることができる	
	2	意味のある多様な問いを発することができる	
	3	問題解決に向けて粘り強く時間をかけて熟考できる	
	4	目的のため、柔軟に対処・変容する事ができる。	
	5	常に客観的であることを目指している	
	6	他者の考えを安易に論争みにしないで熟慮できる	
	7	他者の考えや相反する意見を必要に応じ受け容れる寛容さを持つ	
	8	対象の本質をとらえようという意識を持つことができる	
	9	困難な状況にあえて挑戦しようとする事ができる。	
B 分析的 思考	1	問題解決や目標達成のために適切な計画を立てられる	
	2	問題解決に必要な情報を抽出することができる	
	3	情報(主題、仮説、構造、内容、概念、情報の性質、意味等)を明確化(定義・要約・翻訳・置き換え)できる	
	4	仮定されているもの、暗黙の前提を明確化・同定できる	
	5	推論の土台を検討できる	
C 論理的 思考	1	表現の目的に合わせて適切に言語調整表現できる。	
	2	適切な根拠を添え主張することができる。	
	3	規則・定義・条件等を理解し、適切に適用できる。	
	4	理論や公式から適切に結論を導くことができる(演繹)。	
	5	個々の例や現象から、適切に規則性や原理を見つけ出すことができる(帰納)	
	6	複数の価値を、比較判断することができる(価値判断)	
	7	適切に類推して結論を導くことができる(類推)。	
	8	適切な仮説を設定・再構築することができる(仮説設定)	
	9	複数の資料の、情報の関係を見極めたり、作り出すことができる	
	10	具体と抽象の次元を結びつけることができる	
	11	推論の結果を適切に検証することができる	
D 多角 的 思考	1	多様な視点から考えることができる	
	2	比較検討し、共通点と相違点を明確化できる	
	3	多様な知識や情報、視点を組み合わせて解決を探ることができる	
	4	対象について複数の解決法を考え、最も適切なものを選択することができる	
	5	対象の背景や枠組みそのものについて吟味することができる	
E メ タ 認 知	1	受信の	
	2	思考の	
	3	発信の	
	4	背景を	思考の過程・結論を論理的に表現できる
	5	意識し	効果的に問いを発することができる
	6	て	意思決定できる

【具体事例】 ②教材(素材) ③教材(問い/課題)

@安田学園(SS科学言語 I)

教材は、教科書を中心にオリジナル素材も加えて活用し、細分化したCT学習項目での「思考の内容」を「問い」と一緒に明記することで意識して学べるようにしている。

最初の個人ワークでは、課題文の読解の足がかりとして、文章の構造図をかくことを取り入れている。



構造図の例

【共通点を読む】

問 「産業革命」と「ハンバーガー」は、どのような点で似ているか。

【反論する】

問 「世界中がハンバーガー」とは、世界中のアメリカ化ということ。アメリカ固有の文化が、世界を埋め尽くすと筆者は言っている。↓反論してみよう。

【定義する】

問 「グローバルイゼーション」という言葉を定義せよ。

【対比する／属性を考える】

問 隣の人と協力して、グローバルなもの・こと、ローカルなもの・ことの対比関係を書こう。

【思考実験する／比較する／意見と根拠を述べる】

問 徹底的にグローバル化が進んだ世界と徹底的にローカル化が進んだ世界。あなた自身はどちらに行きたいか。それはなぜか。

【併せ読みする／共通構造を読む／問題領域を読む】

問 教科書○ページにある『×××』を読んでみよう。
この文章と『世界中がハンバーガー』とでは、どのようなテーマが共通しているだろうか。

IV.研究成果まとめ詳細解説 3. C:授業におけるポイント

ステップ		ポイント
C: 授業	①授業設計 (授業単位)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 個⇒グループ⇒個の流れで、思考を深める <ul style="list-style-type: none"> ・ 問いに対し、まず個人で考える ・ その考えをペアまたはグループで共有し議論する中で、多様な意見、多面的な視野で考える ・ 上記を踏まえ最終的に個人の考えをまとめる流れで、授業を設計する ■ 対話を通じた学習を核にする
	②指導	<ul style="list-style-type: none"> ■ 生徒の自由な思考を促す <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動を制限しない・思考の自由を与える・考え方を示す・ヒントを出す・不足点を伝える ・ 問い返す ■ 生徒間で多様な考えを認め合うように促す ■ 生徒の状況に合わせ、柔軟に追加説明や新しい教材の提示などの支援を行う (生徒主体が難しい場合の修正)

事例	①授業設計(授業単位) ②指導の事例	事例	①授業設計(授業単位) ②指導の事例
戸山高校 課題探究・ SSI(化学)	 <ul style="list-style-type: none"> ①個人(グループ)での探究活動が中心 ②指導では、教師はサポートによる支援 	玉川学園 理系現代文	 <ul style="list-style-type: none"> ①個⇒グループ⇒個の流れで思考を深める ②指導では、生徒の思考を促し、生徒の状況に応じ支援
国立高校 生物	 <ul style="list-style-type: none"> ①生徒による対話を通じた授業を実践。 ②指導では、教師は生徒の思考を促し、必要に応じて講義 	安田学園 SS科学言語 I	 <ul style="list-style-type: none"> ①個⇒グループ⇒個の流れで思考を深める ②指導では、生徒の思考を促し、生徒の状況に応じ支援

ステップ		ポイント	
C: 授業	③成果/アウトプット	<ul style="list-style-type: none"> ■ 各自の思考、成果をアウトプットさせる 	<p><アウトプットの例></p> <ul style="list-style-type: none"> ● テーマに対する自分の考えと根拠の記述・発表 ● 小論文作成 ● 探究・研究レポート作成 ● 校内の発表大会など、保護者や他学年の生徒など聴衆がいる場での発表 ● 学会や研究会など校外の発表の場での発表
	④振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ■ 最初の目標に照らし合わせて成果の振り返りをさせる 	<p><振り返り活動の例></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 成果・プロセスの振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の力がついたかどうか ・ 発表などで、よかった点や課題 ・ 問題のどこを、どうして間違えたのか ・ 疑問に思うこととそれに対する予想 ・ 上記の振り返りから理解を深め改善点を見いだす（自分で・対話を通して） ● 学び方の振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・ 友だちの学び方を知ることによって自分の学び方をよりよくする ● 他者評価を踏まえた振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・ 発表などに対する他者からの意見・感想・評価を踏まえて自分の改善点を見いだす

事例	③成果/アウトプット及び④振り返り	事例	③成果/アウトプット及び④振り返り
戸山高校 課題探究・ SSI(化学)	③成果/アウトプット <ul style="list-style-type: none"> ● 探究・研究レポート ● 学会や研究会など校外の発表会での発表（日本語・英語） 	玉川学園 理系現代文	③成果/アウトプット <ul style="list-style-type: none"> ● テーマに対する自分の考えと根拠の記述 ● 小論文作成 ● 探究活動の研究レポート作成 ● 校内発表
			④振り返り <ul style="list-style-type: none"> ● 発表会の振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・ 他者からのコメントを受けて振り返る
国立高校 生物	③成果/アウトプット <ul style="list-style-type: none"> ● プリントの課題 	安田学園 SS科学言語 I	③成果 <ul style="list-style-type: none"> ● テーマに対する自分の考えと根拠の記述 ● 小論文作成
	④振り返り <ul style="list-style-type: none"> ● 授業/考査の振り返り（参考資料# 2） <ul style="list-style-type: none"> ・ 成果プロセスの振り返り ・ 学び方の振り返り 		④振り返り <ul style="list-style-type: none"> ● 自己評価シートによる振り返り

ステップ		ポイント	
D: 評価	評価 (多面的 評価)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 多様な生徒の評価 	<ul style="list-style-type: none"> ● 総括的評価・形成的評価の例 <ul style="list-style-type: none"> ・ 客観テスト ・ 受賞・入賞 ・ ルーブリック評価 ・ 他者からの評価 ・ 自己評価 など
		<ul style="list-style-type: none"> ■ 教師自身の振り返り <ul style="list-style-type: none"> ● 最初の目標に照らし合わせて到達状況を振り返る ● 生徒からの評価を受けて改善点を検討する。(アンケートなど) 	

事例	評価	事例	評価
戸山高校 課題探究・ SSI(化学)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 生徒評価 <ul style="list-style-type: none"> ● 大会発表等への取り組み回数 ● 入賞 ● 教師の見取り 	玉川学園 理系現代文	<ul style="list-style-type: none"> ■ 生徒評価 <ul style="list-style-type: none"> ● ルーブリック評価(生徒と共有) (参考資料#3) ● 批判的思考力アセスメント※1 ● 小論文、発表資料プロセス、発表時のコメントなどの評価
国立高校 生物	<ul style="list-style-type: none"> ■ 生徒評価 <ul style="list-style-type: none"> ● 生物の単元テスト・定期考査 ● 自己評価 ● 教師による評価 ■ 教員自身の振り返り <ul style="list-style-type: none"> ● 生徒アンケート(参考資料#4) 	安田学園 SS科学言語 I	<ul style="list-style-type: none"> ■ 生徒評価 <ul style="list-style-type: none"> ● SS科学言語評価テスト ● CT評価テスト ● 自己評価 ● 批判的思考力アセスメント※1 ■ 教師自身の振り返り <ul style="list-style-type: none"> ● CT項目の記録とチェック

※1 批判的思考力アセスメントは、

IV.研究成果まとめ詳細解説 5. まとめ

必ずしも、すべてのプロセスのすべての要素をそろえる必要はなく、教育改善・改革に向けて、現状の各教科の指導や探究活動などの改善点を見いだすためにこのプロセスの観点を利用していただきたい。

ステップ		ポイント
目標 ↓ 全体計画	目標設定	<ul style="list-style-type: none"> ● 育成したい生徒の姿・伸ばしたい能力は明確か ● 目標は生徒と共有しているか
	全体計画	<ul style="list-style-type: none"> ● 目的に応じた全体設計になっているか ● 学習観の意識変革など学びのマインドセットができているか/必要か ● 学び方を学ばせているか ● 社会につながる学習の場は、必要か・あるか
仕込み (事前準備)	学習環境	<ul style="list-style-type: none"> ● 目標達成には、どのような学習環境が必要か ● 生徒が学びやすい環境になっているか
	教材（素材）	<ul style="list-style-type: none"> ● 思考を促す教材となっているか ● 使っている教材はどのような思考を促しているか
	教材（課題・問い）	<ul style="list-style-type: none"> ● 思考を促す問いとなっているか ● 問い・課題は、どのような思考を促しているか
授業	授業設計(授業単位)	<ul style="list-style-type: none"> ● どのような学びを実現したいか
	指導	<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒の思考を促しているか ● 生徒同士がお互いを認め合うように促しているか ● 状況に応じて支援・指導しているか
	成果/アウトプット	<ul style="list-style-type: none"> ● どのような思考・成果をアウトプットさせるか
	振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ● 目標に照らして成果を振り返り、次の活動につなげているか
評価	評価	<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒の多面的な評価を行っているか ● 教師自身も振り返りを行い、指導や計画を見直しているか

資料「生徒主体の学びのデザイン」チェック表				
実施ステップ		まとめ		
目標 ↓ 全体計画	目標設定 (資質能力ベース)	<ul style="list-style-type: none"> 育てたい生徒の姿を具体的に書く 育てたい能力を明確にする 目標を具体的に、生徒がイメージできるようにする <ul style="list-style-type: none"> 生徒がなりたいたい姿のイメージを持つようにする 評価の観点(成果のイメージ)を生徒と共有する 	<ul style="list-style-type: none"> 育成したい生徒の姿は明確か 伸ばしたい能力は明確か 目標は生徒と共有しているか 	
	授業設計 (年間)	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的なスキル習得につながる活動を初めに組み込むなど、目的に応じて全体を設計する 生徒の学びへの意識を高める(受け手のマインドセットを築く) (初期の段階) 学び方を学ばせる <ul style="list-style-type: none"> 学習ものの進め方 探究の進め方 社会につながる学習の場を活用する(外部リソースの取り入れ) 	<ul style="list-style-type: none"> 目的に応じた全体設計になっているか 学習者の意識など、学びのマインドセットができていく必要があるか 学び方を学ばせているか 社会につながる学習の場は必要か 	
仕込み (事前準備)	学習環境	<ul style="list-style-type: none"> 対話によって学習が深められる環境を用意する 	<ul style="list-style-type: none"> 目標達成には、どのような学習環境が必要か 生徒が学びやすい環境になっているか 	
	教材 (素材)	<ul style="list-style-type: none"> 思考を促す教材を用意する 	<p><教材の例></p> <ul style="list-style-type: none"> デジタル教材の場合 <ul style="list-style-type: none"> 多面的な視点を持つ教材 自分の日常と結びつく教材 教科書の場合 <ul style="list-style-type: none"> 既存の教科書を分析し、どの能力が育成できるかを明確にして使用する 情報を批判的に捉える対象としても、教科書を利用する 入試問題の場合 <ul style="list-style-type: none"> 入試問題を分析し、能力の育成や深い理解が促されるかを明確にして、活用する 論文などの場合 <ul style="list-style-type: none"> 探究活動のために、学術論文なども含めた必要な情報を生徒自身が集め、活用することを支援する 	<ul style="list-style-type: none"> 思考を促す教材となっているか 使っている教材はどのような思考を促しているか
	教材 (課題・問い)	<ul style="list-style-type: none"> 思考を促す課題・問いを設定する 	<p><問いの例></p> <ul style="list-style-type: none"> 理解を深める問い <ul style="list-style-type: none"> 「～について論ぜよ」など、理解をしていないとすぐに答えにたどり着かない、いくつかの視点が含まれる問い 思考するための問い <ul style="list-style-type: none"> 「～とはどのような点で異なるか」 「～と～を比較してどちらを選ぶか論ぜよ」など 複数の情報を分析して多面的に考える課題や問い オープンエンドで多面的に考え、自分の考えを深められる問い オーフエンドで多面的に考え、自分の考えを深められる問い 探究テーマでの自己探究の例 <ul style="list-style-type: none"> 興味・関心が持てるもの 社会に役立つと考えられるもの 	<ul style="list-style-type: none"> 思考を促す問いとなっているか 問い・課題は、どのような思考を促しているか
授業	授業設計 (授業単位)	<ul style="list-style-type: none"> 単一グループでの流れで、思考を深める <ul style="list-style-type: none"> 問いに対し、まず個人で考える その考えをペアまたはグループで共有し議論する中で、多様な意見、多面的な視野で考える 上記を踏まえ最終的に個人の考えをまとめる流れで、授業を設計する 対話を通した学習を根にする 	<ul style="list-style-type: none"> どのような学びを実現したいか 	
	指導	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の自由な思考を促す <ul style="list-style-type: none"> 活動を制限しない 思考の自由を与える 考え方を示す ヒントを出す 不足点を伝える 問い直す 生徒間で多様な考えを認め合うように促す 生徒の状況に合わせ、柔軟に追加説明や新しい教材の提示などの支援を行う(生徒主体が難しい場合の修正) 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の思考を促しているか 生徒同士がお互いを認め合うように促しているか 状況に応じて支援、指導しているか 	
	成果/アウトプット	<ul style="list-style-type: none"> 各自の思考、成果をアウトプットさせる 	<p><アウトプットの例></p> <ul style="list-style-type: none"> テーマに対する自分の考えと根拠の記述・発表 小論文作成 探究・研究レポート作成 校内の発表大会など、保護者や他学年の生徒など聴衆がいる場での発表 学会や研究会など校外の発表の場での発表 	<ul style="list-style-type: none"> どのような思考・成果をアウトプットさせるか
振り返り	振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 振り返り活動の例 <ul style="list-style-type: none"> 成果・プロセスの振り返り <ul style="list-style-type: none"> 自分の力がついたらどうか 発表などで、よかった点や課題 課題のどこを、どうして克服したのか 疑問に思うこととそれに対する予想 上記の振り返りから理解を深め改善点を見いだす(自分で、対話を通して) 学び方の振り返り <ul style="list-style-type: none"> 友達の学び方を知ることで自分の学び方をよりよくなる 他者評価を基とした振り返り <ul style="list-style-type: none"> 発表などに対する他者からの意見・感想・評価を踏まえて自分の改善点を見いだす 	<ul style="list-style-type: none"> 目標に照らして成果を振り返り、次の活動につなげさせているか 	
	評価 (多面的評価)	<ul style="list-style-type: none"> 多様な生徒の評価 教師自身の振り返り <ul style="list-style-type: none"> 最初の目標に照らし合わせて学習状況を振り返る 生徒からの評価を受けて、改善点を検討する(アンケートなど) 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の多面的な評価を行っているか 教師自身も振り返りを行い、指導や計画を見直しているか 	

BERDサイトでは、左の、「生徒主体の学びのデザイン」チェック表をダウンロードしていただけます。

是非、ご利用ください。

V 参考資料

各学校から具体事例としてご提供いただいたプリント、評価シートなどをまとめてこちらに掲載します。参考資料としてご活用いただければ幸いです。
ただし、無断転用は、お控えください。

参考資料リスト

# 1 : S S 科学言語が設定する C T 1 3 1 項目	@安田学園	SS科学言語 I
# 2 : 考査振り返りシート	@国立高校	生物
# 3 : ルーブリック評価	@玉川学園	理系現代文
# 4 : 教師の振り返りツール 生徒アンケート	@国立高校	生物

CI評価規準		国語科・SS科学言語 学習活動リスト	CI評価規準		国語科・SS科学言語 学習活動リスト	
1 基礎	1 好奇心を持って積極的に活動し、考え、更に調べることができる	1 好奇心を持って積極的に活動し、考え、更に調べる	2 論理的思考	1 表現の目的に合わせて適切に言語調整表現できる。	1 接続詞を使う・埋める	
	2 意味のある多様な問いを発することができる	1 意味のある多様な問いを発する		2 適切な根拠を添え主張することができる。	2 字数調整する	
	3 問題解決に向けて粘り強く時間をかけて熟考できる	1 問題解決に向けて粘り強く時間をかけて熟考する 2 反省的に思考する 3 判断を留保する		3 規則・定義・条件等を理解し、適切に適用できる。	3 語彙や言い方を調整する 4 言語表現において抽象化する・具体化する 5 要約する(指定字数言語表現・再話・一文・タイトル付け・)	
	4 目的のため、柔軟に対処・変容することができる	1 目的のため、柔軟に対処・変容する 2 自己制御する 3 コンテキストに応じて批判的思考を抑制する		4 理論や公式から適切に結論を導くことができる(演绎)	1 根拠・理由を述べる 2 概念語を知る・使いこなす 2 理論を知る・使いこなす 3 定義を応用する 4 仮説を立てる 5 思考実験する	
	5 常に客観的であることを目指している	1 常に客観的であることを目指している 2 証拠・事実を重視する 3 偏りなく考える		5 個々の例や現象から、適切に規則性や原理を見つけ出すことができる(帰納)	1 分かっていることから分かっていない事を書く 2 個々の例や現象から、適切に規則性や原理を見つけ出す 3 外挿する	
	6 他者の考えを安易に鵜呑みにしないで熟慮する	1 他者の考えを安易に鵜呑みにしないで熟慮する		6 複数の価値を、比較判断することができる(価値判断)	1 複数の価値を、比較判断する 2 メリットデメリットを分析する	
	7 他者の考えや相反する意見を必要に応じて受け容れられる寛容さを持つ	1 思いやりの原理を適用する 2 他者の考えや相反する意見を必要に応じて受け容れる		7 適切に類推して結論を導くことができる(類推)	1 類推して結論を導く	
	8 対象の本質をとらえようという意識を持つことができる	1 対象の本質をとらえようという意識を持つ		8 適切な仮説を設定・再構築することができる(仮説設定)	1 適切な仮説を設定・再構築する	
	9 困難な状況にあえて挑戦しようとする	1 困難な状況にあえて挑戦しようとする		9 複数の資料の、情報の関係を見極めたり、作り出すことができる	1 複数の資料の情報の関係を見極めたり、作り出すことができる	
	2 発展	1 問題解決や目標達成のために適切な計画を立てられる		1 問題点を明確にする 2 目標を明確にする 3 問題解決や目標達成のために適切な計画を立てられる	10 具体と抽象の次元を結びつけることができる	1 具体と抽象を読む 1 曖昧な部分がないか検証する 2 命題間の矛盾を検証する 3 他の原因はないか検証する 4 結論の必然性を検証する 5 命題が特定されているか検証する 6 命題に原則が適用されているか検証する 7 観察結果の信頼性を検証する 8 帰納による結論の信頼性を検証する 9 証拠の信頼性を検証する 10 問題の明示性を検証する 11 仮定(価値観・事実)が何か判断する 12 定義の適切性を判断する
2 問題解決に必要な情報を抽出することができる		1 解を導くために必要な情報を収集する 2 同意語・句・文を検索する 3 問題提起文を抽出する 4 集めた情報を整理構成する 5 価値評価語を抽出する	11 推論の結果を適切に検証することができる	1 背景から読む 2 複数の、異なる角度の情報を収集する 3 反論する 4 悪魔の代理人アプローチを行う 5 視点をずらす(視点を変える) 6 機能を読む(表現機能・表現効果・人物・意図的・非意図的) 7 語りの次元を読む		
3 応用		情報(主題、仮説、構造、内容、概念、情報の性質、意味等)を明確化(定義・要約・翻訳・置き換え)できる	1 接続関係を読む 2 段落間関係を読む 3 心情を読む・心情を言語化する 4 人物像を読む 5 視点を読む(書き手・登場人物・読者・語り手・作者・同時代書誌・自分自身) 6 テキストの批判している対象・思想を読む 7 テキストの肯定・肯定している対象・思想を読む 8 筆者の主張を読む 9 原因と結果の構造を読む(論理チェーンを作る) 10 根拠を読む(想定する・作り出す) 11 事実と意見(価値)を区別する 12 客観と主観を識別する 13 要素分解する 14 分析し、総合する 15 6W1Hを読む 16 パラグラフ構造化する 17 文法的な構造に還元して読む(SVOC) 18 言い換える・和文和訳する・翻訳する 19 分かりやすく説明する(～オの人でもわかるように) 20 意味を読む(文意・語意など) 21 解釈する 22 指示語を読む 23 喩えを読む 24 象徴を読む 25 非連続テキストを読む 26 対比関係を読む 27 テキストの空所を読む 28 カテゴリー化する 29 構造化化する 30 構成(書き手が構成しようとした構成)を読む 31 論証の構造を読む 32 定義する	1 多様な視点から考えることができる	1 比較する 2 類似点・共通点を読み解く(作り出す) 3 相違点を読み解く 4 例示する	
			4 仮定されているもの、暗黙の前提を明確化・同定できる	1 暗黙の前提を明確化する 2 書き手の思想・書き手を規定している言説を明らかにする 3 問題領域を見つめる 4 バイアスを読む ・権威バイアス・過度の一般化・解離論・アンカリング ・ステレオタイプな偏見・不明確・論理矛盾・主観 2 情報源(根拠)の信頼性を評価判断する 3 事実意見調査観察などの内容自体を評価判断する 4 批判する	2 比較検討し、共通点と相違点を明確化できる 3 多様な知識や情報、視点を組み合わせることで解決を探ることができる 4 対象について複数の解決法を考え、最も適切なものを選択することができる 5 対象の背景や枠組みそのものについて吟味することができる	1 結果を見直す 2 過程を見直す 2 添削する 3 説得する 4 評価する 5 修正する 1 思想を書く
			5 推論の土台を検討できる	1 受信の過程・結果の妥当性を自己評価・検証・修正できる 2 思考の過程・結果を論理的に表現できる 3 発信の過程・結果を論理的に表現できる 4 思考の過程・結論を論理的に表現できる 5 背景を意識して効果的に問いを発することができる 6 意思決定できる	1 2 3 4 5 6	2 謙歩反論する 3 報告する 4 小論文を書く 1 問いを立てる 2 パラグラフライティングする 3 提案する 4 啓蒙する 5 インタビューする 1 物語を書く 2 プレゼンテーションする 3 デイバートする 4 意見文を書く

「理系現代文」各活動の評価規準（例）

■下表は、規準Aの観点。文章、口頭発表、質問などすべてに共通する。

		評価の観点 規準A:①内容理解②知識③思考(批判的思考含む)
0		以下の説明で記述されているいずれの規準にも到達していない。
1~2	①	学習者は問いの要求に応えず、課題の内容やトピックについて理解していない。
	②	関連用語の理解、定義や使用は、欠けていたり一貫性がなかったりして、不正確である。
	③	批判的思考力について理解が進まず、自分のために利用しようという意識が見られない。
3~4	①	学習者は問いの要求に一部応え、課題の内容やトピックについて、限られた理解を示す。
	②	関連用語の理解、定義や使用は、たいてい正確であり、適切である。
	③	批判的思考力を用いる努力をすることができている。
5~6	①	学習者は問いの要求に応え、課題の内容やトピックについて十分な理解を示している。
	②	関連用語の理解、定義や使用は、たいてい正確であり、適切である。
	③	批判的思考力を若干用いることができる。
7~8	①	学習者は問いの要求によく応え、内容やトピックについてもよい理解を示している。
	②	関連用語の理解、定義や使用は、正確であり、適切である。
	③	批判的思考力を用いることができ、自分の思考をまとめることができている。
9~10	①	学習者は問いの要求に鋭い理解を示して的確に応え、内容やトピックについても的確な理解を示している。
	②	関連用語の理解、定義や使用について、高度な運用力を持っていて、かつ適切である。
	③	批判的思考力を効果的に用いて、自分の思考を他者へ伝える意識を持っている。

生徒へのアンケート：生徒の意見を聞いて改善すべき観点に絞って、確認する

第1回考査後授業アンケート

1、この授業に関して、当てはまるものに○をつけて下さい。

1：そう思わない 2：どちらかといえばそう思わない 3：どちらともいえない
4：どちらかといえばそう思う 5：そう思う

1	授業に興味・関心・意欲をもって取り組んでいる	1	2	3	4	5
2	授業の内容は理解できた	1	2	3	4	5
3	授業を経てこの科目が好きになった	1	2	3	4	5
4	現在の授業スタイルはよいと思う	1	2	3	4	5
5	この授業は「安心して学べる場」であると思う	1	2	3	4	5
6	授業で他の生徒のために時間を使うことがあった。	1	2	3	4	5
7	授業で、自分は見捨てられることなく学ぶことができた。	1	2	3	4	5
8	他の生徒との話し合いの中で、教えてもらって理解が深まることがあった	1	2	3	4	5
9	他の生徒との話し合いの中で、理解したことを説明することで理解が深まることがあった	1	2	3	4	5
10	授業時間を最大限有効に活用しようと意識をもった	1	2	3	4	5
11	「与えられるのを待つ」だけでなく、「自ら求めて動く」ような主体的な姿勢を意識した	1	2	3	4	5
12	「与えられるのを待つ」だけでなく、「自ら求めて動く」ような主体的な姿勢が身についた	1	2	3	4	5

2、授業内の様々な活動に関して、当てはまるものに○をつけて下さい。

1：よいと思わない 2：どちらかといえばよいと思わない 3：どちらともいえない
4：どちらかといえばよいと思う 5：よいと思う

1	野外観察「自然から考える」	1	2	3	4	5
2	実習「顕微鏡の使い方」	1	2	3	4	5
3	実習「細胞の観察」	1	2	3	4	5
4	実習「細胞の観察」でのプレゼン	1	2	3	4	5
5	実習「カイコから考える」	1	2	3	4	5

6	実習「カイコから考える」でのプレゼン	1	2	3	4	5
7	課題「コンセプトマップ」	1	2	3	4	5
8	課題「コンセプトマップ」でのプレゼン	1	2	3	4	5
9	課題「問をつくる」	1	2	3	4	5
10	課題「問をつくる」でのプレゼン	1	2	3	4	5
11	課題「振り返りと関連付け」	1	2	3	4	5

3、50分授業で講義の時間はどのくらいがよいと思うか当てはまるものに○をつけて下さい。

①なし ②～5分未満 ③5分～10分未満 ④10分～25分未満
⑤25分～50分未満 ⑥50分

4、授業に関して、当てはまるものに○をして下さい（複数回答可）。

- 1、講義がわかりやすいので安心して学べた。
- 2、一人でじっくりと課題と向き合えるので安心して学べた。
- 3、周囲の生徒と話し合えるので安心して学べた。
- 4、話し合いを強制されないので安心して学べた。
- 5、遅刻や欠席をしても周囲の人に色々教えてもらいながら遅れた部分を理解することができるので安心して学べた。
- 6、聞くだけの授業よりも主体的な活動時間があるのでやる気が出た。
- 7、授業プリントの課題が面白くやる気が出た。

5、発展課題に関して、当てはまるものに○をして下さい。

- 1、発展課題はできる限りすべてに取り組んだ。
- 2、発展課題は興味を持ったものだけを選択して取り組んだ。
- 3、発展課題には目を通すが、実際に取り組まなかった。
- 4、発展課題には目を通さず、実際に取り組まなかった。

6、学習のグループ分けについてどれがよいと思うか、当てはまるものに○をつけて下さい。

- ①固定の4人グループ
- ②ランダムな4人グループ（毎時間変える）
- ③グループを指定しない

7、これまでの授業についての意見、感想を聞かせて下さい（授業のスタイル、授業内容、分量、難易度、進行速度、授業の進め方、時間配分、プリントの構成、受験対策、発展課題 e t c . . . ）。